

甲斐市文化財調査報告第5集
(山梨県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '06

2006

甲斐市教育委員会

甲斐市文化財調査報告第5集
(山 梨 県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '06

2006・3

甲斐市教育委員会



泉尻B遺跡出土の墨書土器

序 文

甲斐市は、2004年9月に竜王町、敷島町、双葉町が合併し誕生いたしました。本市には、県指定史跡である白鳳時代の古代窯「天狗沢瓦窯跡」や同じく県指定史跡の「中秣塚古墳」を代表とした赤坂台地の古墳群、平安時代の大集落「松ノ尾遺跡」、中世から近世にかけての堤防跡など、貴重な歴史的資料が多く存在します。

近年は、人口増加に伴い宅地開発や大型店舗の建設など多くの開発事業が行われており、行政としましては、この開発に伴って失われていく文化財を調査・保存というかたちで、保護していかねばなりません。

この状況のもと、平成17年度に文化財保護対策事業として国・県の補助金をうけ、包蔵地内における開発に先立つ埋蔵文化財の遺存状況把握のための試掘調査を実施してまいりました。本書は、平成17年度に行った調査結果を報告するものであります。

今後も、開発によって消滅を余儀なくされる文化遺産を保護し、普及して行くことが私たちの義務と考えております。

最後になりましたが、甲斐市の文化財保護・保存対策に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に対し、深く感謝いたし序といたします。

平成18年3月

甲斐市教育委員会
教育長 中 込 豊 弘


例 言

1. 本書は山梨県甲斐市における埋蔵文化財試掘調査に関する報告書である。
2. 試掘調査および整理調査は、文化庁・山梨県より補助金を受けて甲斐市教育委員会が実施した。
3. 本年報の執筆は第1章を大寫正之、第2章大寫・須長愛子、第3章を大寫が担当した。
編集は大寫が行った。
4. 試掘調査で得られた出土品およびすべての記録は、甲斐市教育委員会に保管してある。

調 査 組 織

調査主体	甲斐市教育委員会 教育長 中込豊弘
調査事務局	甲斐市教育委員会生涯学習文化課 長田 徳一（生涯学習文化課長） 大寫 正之（生涯学習文化課文化財担当リーダー） 高須 秀樹（生涯学習文化課文化財担当副主査） 須長 愛子（生涯学習文化課文化財担当文化財調査員）
調査担当者	大寫 正之 高須 秀樹 須長 愛子
調査・整理	青山制子・飯室久美恵・石川弘美・長田由美子・小林明美 望月典子
参加者	高添美智子・保延勇・関本芳子・森沢篤美・堤吉彦・保坂秋蘭 早川みどり

凡 例

遺物挿図中、断面白抜きは土器、 は須恵器、 は赤彩をあらわす。

遺物はすべて原寸の1/3で図示した。

目 次

序 文
例 言
調査組織

I 平成 17 年度(2005)埋蔵文化財保護行政概要	2
II 各遺跡試掘調査概要	7
a. お舟石古墳・間々下遺跡	7
b. 松ノ尾遺跡①	8
c. 松ノ尾遺跡②	12
d. 泉尻 B 遺跡	14
III まとめ	18

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図 試掘調査地点(1)	5	第 7 図 松ノ尾遺跡①出土遺物実測図<2>	11
第 2 図 試掘調査地点(2)	6	第 8 図 松ノ尾遺跡②位置図	12
第 3 図 お舟石古墳、間々下遺跡位置図	7	第 9 図 松ノ尾遺跡②調査区	12
第 4 図 松ノ尾遺跡①位置図	8	第 10 図 泉尻 B 遺跡位置図	14
第 5 図 松ノ尾遺跡①調査区図	8	第 11 図 泉尻 B 遺跡調査区	16
第 6 図 松ノ尾遺跡①出土遺物実測図<1>	10	第 12 図 泉尻 B 遺跡出土遺物実測図	17

表 目 次

第 1 表 平成 17 年度試掘調査一覧表(1)	3
第 2 表 平成 17 年度試掘調査一覧表(2)	4

I 平成 17 年度（2005）埋蔵文化財保護行政概要

平成 17 年度状況概要

甲斐市は、平成 16 年 9 月 1 日に竜王町・敷島町・双葉町が合併し誕生した。山梨県の北西部に位置し、人口は 74,233 人（平成 18 年 1 月 31 日現在）、面積は 71.94 k m²、南北約 20 km、東西約 9 km と南北に細長い地形で、南部は平坦地で住宅地と農地が混在する地域で近年急速に市街化が進んでいる。また北部は山地や丘陵地で農地が広がるが、丘陵地についても平坦地同様、一部で市街化が進んでいる。

本市の包蔵地分布図を概観すると、そのほとんどが平坦地と丘陵地で確認されている。平坦地南側は堤防跡、中近世の遺跡が点在し、北側の扇状地上の微高地には、金の尾遺跡や松ノ尾遺跡など縄文時代から古墳・平安時代さらに中世にいたる幅広い時代の大規模な遺跡が確認されている。また丘陵地については、縄文時代を中心とした遺跡が点在し、先端部は中稜塚古墳など古墳時代後期の赤坂台古墳群が存在する。

市内は、国道 20 号線、52 号線、県道は甲府・敷島・韮崎線、敷島・田富線、甲府・櫛形線、市道三味堂・村上線などの道路網の発展、また中央本線竜王駅周辺も含め、商業施設、住宅施設などの大小を問わない開発が頻繁に行われてきている。

今年度の開発は、合併以前の傾向と同様で、宅地造成事業や個人住宅建設、商業施設の建設といった民間開発が多い。その内、個人住宅については保護層の確保を行った建設が多く、工事立会い・慎重工事の指導件数も増加傾向にある。

今後の取り組み

一昨年 9 月 1 日に 3 町が合併し甲斐市として市制が施行されたことに伴い、中央本線竜王駅周辺整備などの大型公共工事の計画があり、また大型店舗出店をはじめとした大小の民間開発も一層の増加傾向にある。このことから試掘調査や緊急調査の件数もそれに比例して増加していくと考えられる。

特に民間開発に起因するものについては、個人の不動産などに関する問題、民間業者に対する金融機関による支援など諸事情が関連しており、デリケートな面を抱えているのが実情であり、さらに緊急を要する対応に迫られることも少なくない。こうしたことから、包蔵地の問い合わせがあった時点から一貫した整合性のある対応が必要であり、関係者と綿密な調整を行い、十分な理解を得た上で文化財保護行政を進めていかなければならない。

このような状況を踏まえ、迅速かつ的確に執行できるよう、『遺跡情報管理システム』の構築を行い、包蔵地や過去の調査状況、遺跡の性質などの管理を一元化し、より有効な活用をしていくことを計画している。

本市では当面の間、原因者が官民を問わず、発掘調査に関しては要請があれば市教育委員会において行こととするが、本市としてどのような調査体制が望ましいのか、様々な面から検討を行い、体制を確立していかなければならないことが今後の大きな課題として挙げられる。

平成 17 年度調査一覧

【試掘調査】

No.	遺跡名	調査地	調査対象 面積㎡	調査原因	種別	発見遺構 遺物	県通知発信番号
1	間々下 お舟石古墳	志田637番地 外	136.200.0	店舗	散布地 古墳	土坑 土師器	H16.12.7教学 文1569
2	信玄堤	竜王新町2162-5	61.47	個人住宅	堤跡	なし	H17.5.31教学 文481
3	村続	島上条296-1	587.6	個人住宅	集落跡	なし	H17.6.8 教学 文 587
4	霞堤	玉川776-2	450.79	個人住宅	堤跡	なし	H17.6.8 教学 文 586
5	信玄堤	竜王2133-2・212 3	615	宅地造成	堤跡	なし	H17.6・8 教学 文588
6	松ノ尾①	大下条1086-1 外	1111.72	宅地造成	集落跡	住居跡 土師器	H17.6.29教学 文779
7	沖田	竜王新町1067番地 外	2023	宅地造成	散布地	なし	H17.6.29教学 文770
8	沖田	竜王新町219番地 外	2005.48	宅地造成	散布地	なし	H17.6.23教学 文701
9	峰A	大久保1432-1	201.88	その他 鉄塔	散布地	なし	H17.6.29教学 文805
10	霞堤	富竹新田441-12	203.31	個人住宅	堤跡	なし	H17.7.13教学 文930
11	沖田	竜王新町1572-1	263.82	個人住宅	散布地	なし	H17.7.20教学 文1007
12	三昧堂	大下条1037-3	328.08	個人住宅	集落跡	なし	H17.8.16教学 文1248
13	左宮寺	西八幡609-16	187.5	個人住宅	散布地	なし	H17.8.16教学 文1249
14	狐石A	宇津谷1921番地	60	市農道	散布地	なし	H17.8.24教学 文1294
15	松ノ尾	中下条1857-3	153.37	個人住宅	集落跡	なし	H17.10.5教学 文1603
16	古村東	篠原246-1	434.73	個人住宅	散布地	なし	H17.10.5教学 文1599
17	防沢東	岩森1283番地 外	999.55	集合住宅	散布地	なし	H17.10.19 教学文1712
18	泉尻B	大下条500-1 外	1454.23	集合住宅	散布地	落ち込み 土師器	H17.10.26 教学文1768
19	沖田	竜王新町926-1	532.08	集合住宅	散布地	なし	H17.10.31 教学文1806
20	霞堤	富竹新田508-2	224.7	個人住宅	堤跡	なし	H17.11.7教学 文1849
21	着物沢	龍地4701-7 外	1834	市農道	散布地	なし	H17.11.24 教学文1990
22	篠原壘跡	篠原2330-1	2982	宅地造成	城館跡	なし	H17.11.24 教学文1991

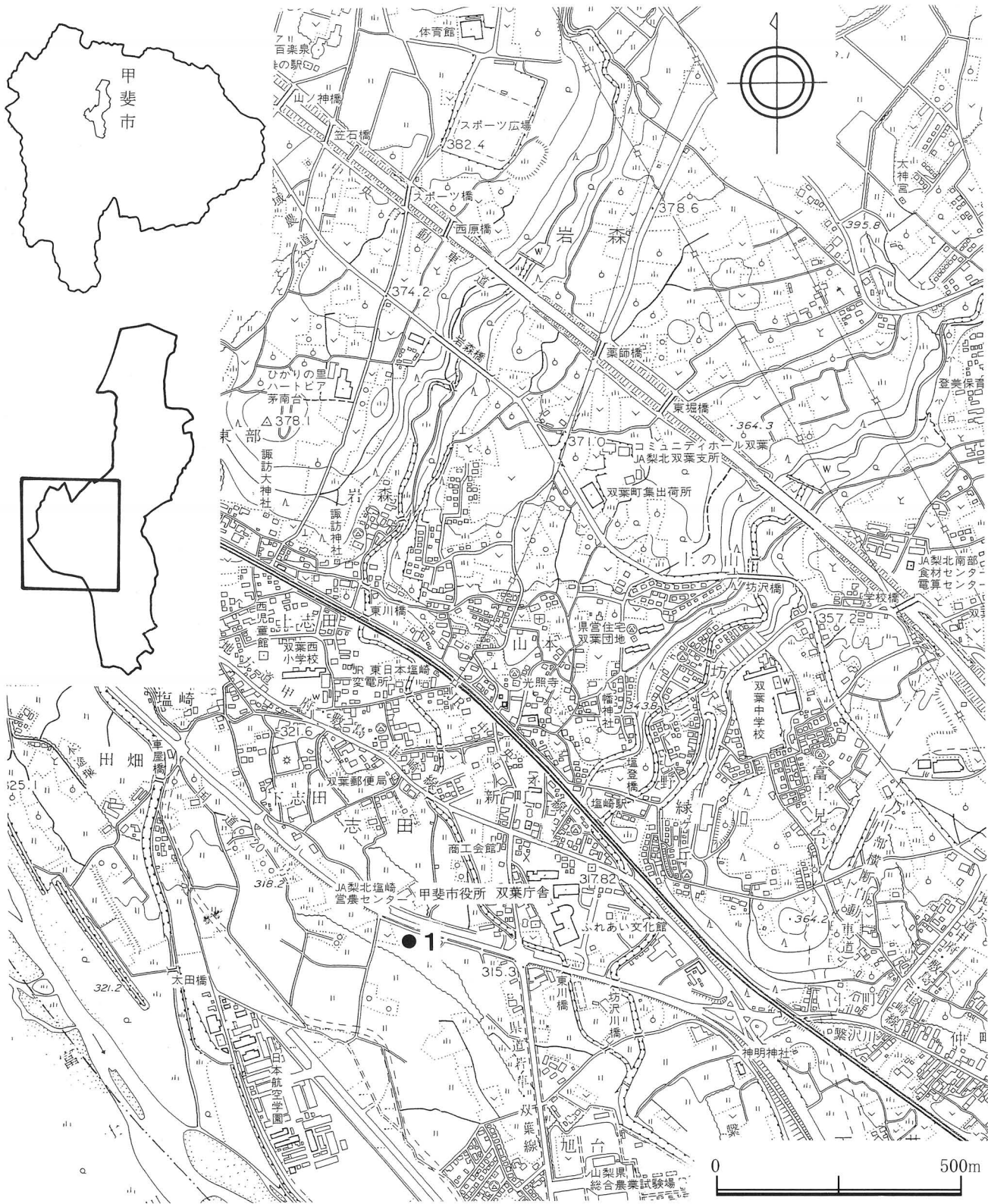
第 1 表 平成 17 年度試掘調査一覧表 (1)

No.	遺跡名	調査地	調査対象面積	調査原因	種別	発見遺構遺物	県通知発信番号
23	篠原 壘跡	篠原2330-1の一部	167.6	個人住宅	城館跡	なし	H17.12.9教学文2103
24	篠原 壘跡	篠原2259	904.06	個人住宅	城館跡	なし	H17.12.9教学文2141
25	松ノ尾 ②	大下条389-1 外	1175	宅地造成	集落跡	住居跡土師器	H17.9.14教学文1285
26	霞 堤	富竹新田514-1	200.13	個人住宅	堤跡	なし	H17.12.9教学文2140
27	古村 東	篠原209-1	327.37	個人住宅	散布地	なし	H17.12.19教学文2216
28	松ノ尾	中下条1464-1	234	個人住宅	集落跡	なし	H17.12.19教学文2215
29	石原 田	島上条594-16	162.98	市道	散布地	なし	H17.12.21教学文2282
30	沖 田	竜王新町1067番地	314.44	個人住宅	散布地	なし	H18.1.5 教学文2350
31	村 東	大久保1357-1	28	その他トイレ	散布地	なし	H18.1.31教学文2543
32	上町 北	島上条1657-7	206.2	個人住宅	散布地	なし	H18.2.14教学文2676
33	大下条第2	大下条99-1 外	2565.9	宅地造成	散布地	なし	H18.2.14教学文2675
34	末 法	大下条399-1 外	2495.2	宅地造成	集落跡	住居跡土師器	H18.2.14教学文2674
35	茅ヶ岳東部 広域農道	宇津谷3136-1 外	4795	広域農道		なし	
36	梨北病院	岩森1170-1	4345	病院		なし	
37	下今井工業 団地	下今井608 外	4,1252.0	工業団地		なし	

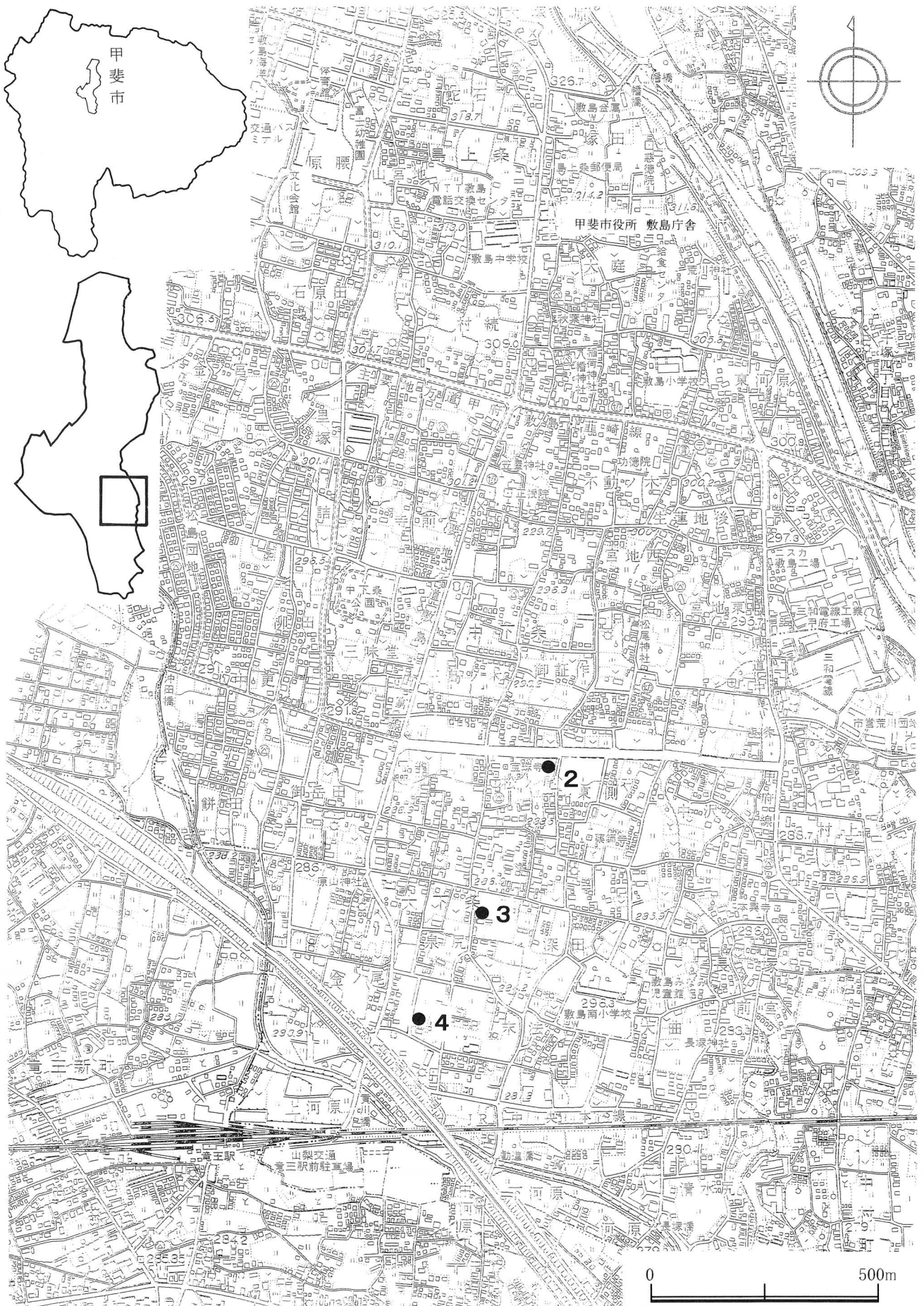
発見遺構、遺物の欄中、個人住宅の結果は基礎工事時の最深掘削面までの内容である。

第2表 平成17年度試掘調査一覧表(2)

【試掘調査】37件 内訳 第1、2表のとおり(内3件は包蔵地外)
【工事立会】36件
【慎重工事】16件
【本調査】2件 内訳 [県道拡幅、宅地造成]



第1図 試掘調査地点(1)



第2図 試掘調査地点 (2)

II. 平成 17 年度試掘調査概要

a. お舟石古墳・間々下遺跡（第 1 図—1）

所在地 甲斐市志田 637 外 130 筆

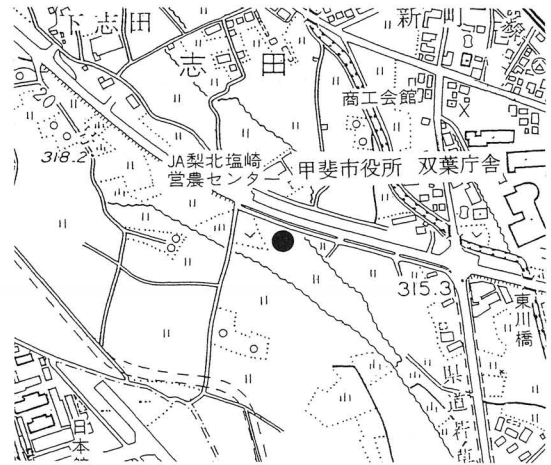
調査原因 店舗建設

調査期間 平成 17 年 4 月 18 日～5 月 30 日

調査対象面積 13.62 ha

調査担当者 大寫正之・高須秀樹・須長愛子

調査概要 お舟石古墳、間々下遺跡は、釜無川左岸の国道 20 号線と県道若草・双葉線の交差する西側に位置する。



第 3 図 お舟石古墳・間々下遺跡位置図

お舟石古墳

現在は崩れた石室がむき出しで残っている状態である。『甲斐国志』によると古来この場所には諏訪神社があったといわれ、崩れた石室が舟のようにみえることから、「お舟石」、船形神社とよばれるようになった。神社は、度重なる洪水のため移築され、石室のみが現在の場所にのこる。

調査は、石室周辺に 10 本のトレンチを入れ、古墳の周溝の確認調査を行った。その結果、石室を取り囲む幅約 3 m の周溝を確認した。また、表土下約 90 cm から土坑 9 基、ピット 4 箇所を確認した。

間々下遺跡

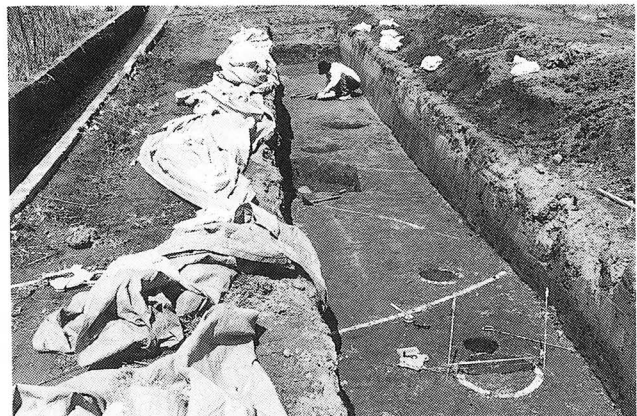
お舟石古墳も含んだ一帯が、間々下遺跡となっている。包蔵地全体にトレンチを 26 本入れ、調査を行った。

間々下遺跡は、国道 20 号線沿いの一部が台地上になっており、調査範囲の中で、南北間の高低差が最大約 2.6 m あることが確認できた。このため、台地部分とそれ以外の部分で遺跡の性質が異なることがわかった。間々下遺跡は大きく 2 つに分けることができる。

国道 20 号線沿いの台地の部分からは表土下 30 cm の褐色砂質土層中から土坑を確認、また表土下 40～60 cm から須恵器の甕・壺の体部破片数点、灯明皿、開元通宝等が出土している。いずれも平安時代から中世の遺物と考えられる。

台地以外の開発予定地中央から南側の箇所においては、表土下 30～50 cm の褐色砂質土層中より江戸時代の陶磁器の破片数点と土師質土器、暗渠と思われる遺構を確認している。また、この地域は六反川の影響を大きく受けていると考えられ、砂や礫の層を多く確認し、河川の流れを知ることができた。

なお、試掘後の協議により開発区域内、国道 20 号線沿いの台地部分について、平成 18 年度に本調査を実施する予定である。



間々下遺跡調査状況

b. 松ノ尾遺跡① (第2図-1)

所在地 甲斐市大下条 1086-1 外

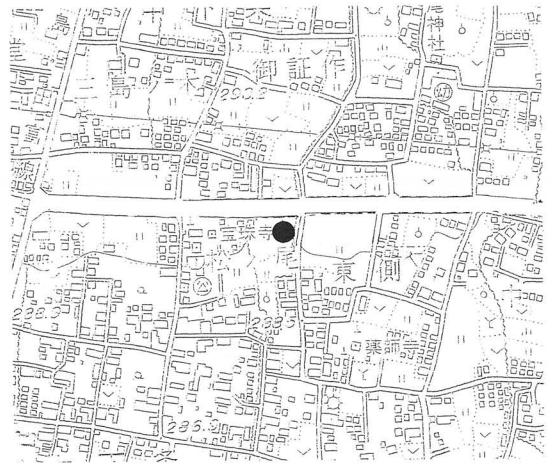
調査原因 店舗建設

調査期間 平成 17 年 7 月 22 日～8 月 11 日

調査対象面積 1111.72 m²

調査担当者 大寫正之

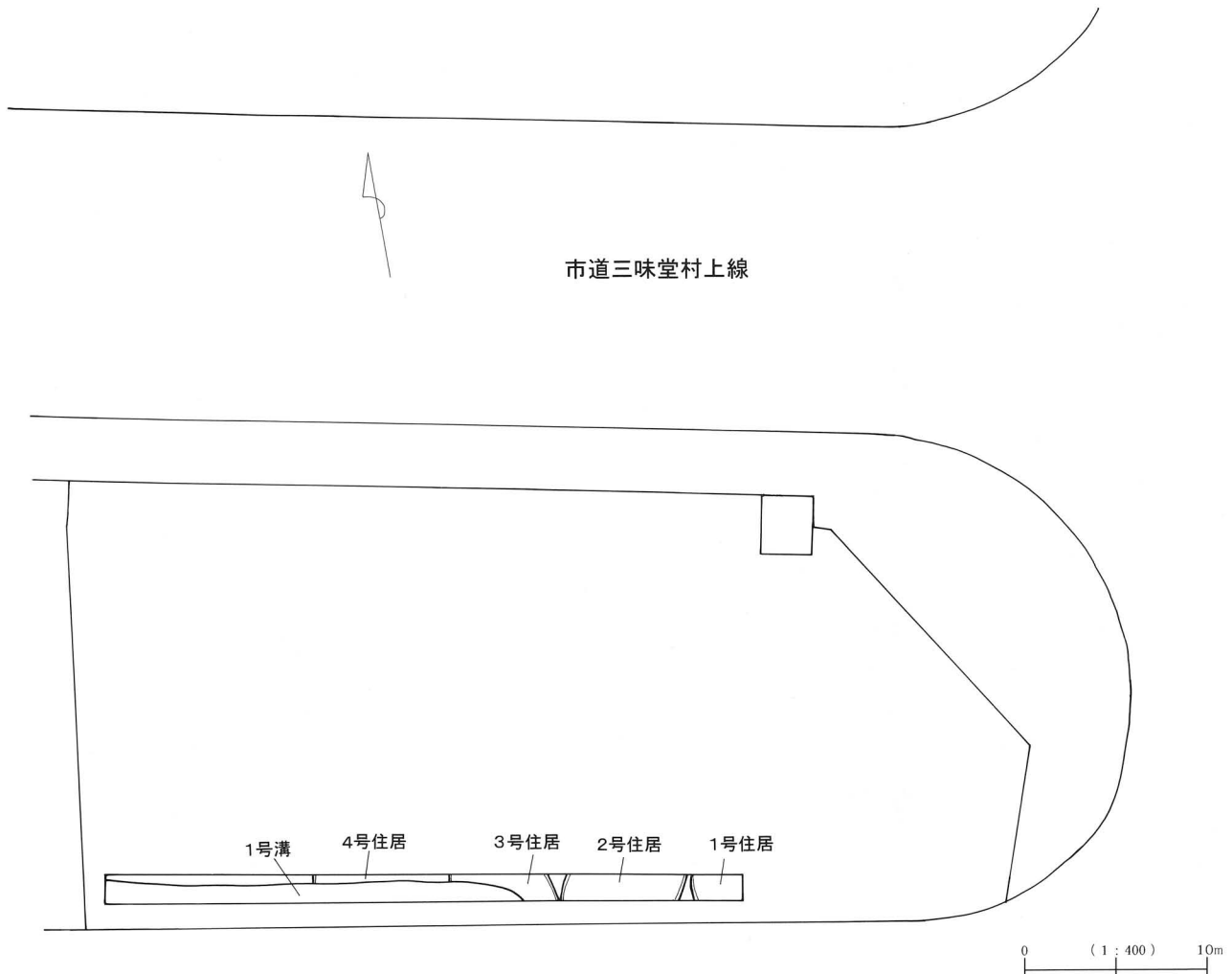
調査概要 松ノ尾遺跡は荒川右岸の微高地上に営まれた集落遺跡である。これまでに本調査 13 回を実施し、縄文時代から室町時代までの多くの遺構が発見されている。また、遺物も布目瓦や螺髪、帯金具、小金銅仏など特異遺物が多く出土している。今回の調査地点はちょうど松ノ尾遺跡のほぼ中央に位置している。



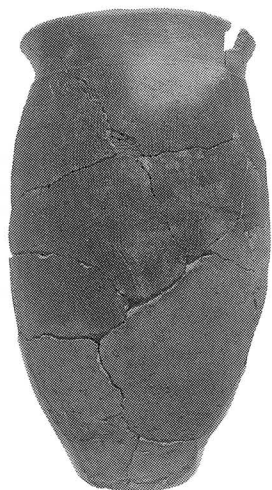
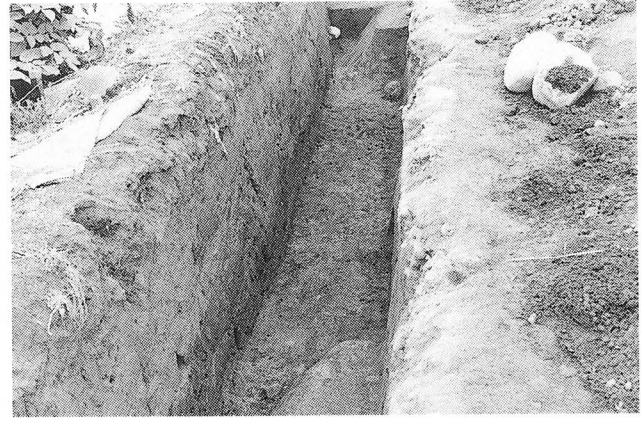
第4図 松ノ尾遺跡①位置図

開発予定地内に計 2 箇所のトレンチを設定し、遺構や遺物の有無について確認調査を行った。その結果、1 号トレンチ(1.2 m×36 m)から住居跡 4 軒、溝状遺構 1 条、土師器などが出土した。

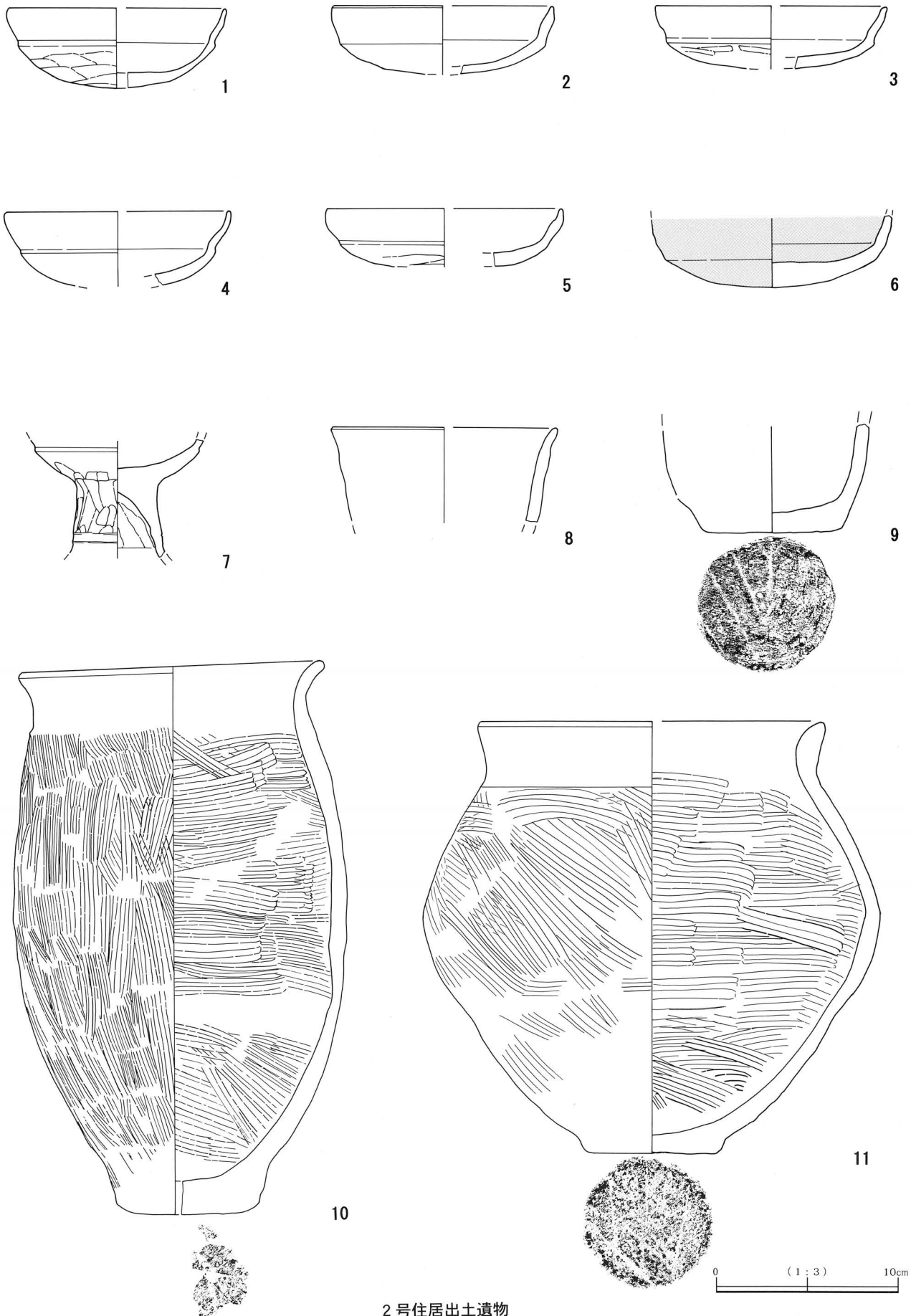
住居跡はトレンチ東側から順次番号を付した。1 号住居跡は確認できる範囲で東西 3 m、壁高 24 cm、土師器片が少数出土した。時代不詳。2 号住居跡は東西 6.5 m、壁高 20 cm、土師器坏、高坏、甕が出土している。遺物などから古墳時代後期。3 号住居跡は、東西 5.6 m、壁高 30 cm、土師器甕片などが出土している。古墳時代後期。4 号住居跡は西壁の確認はできたが東壁は集石などの攪乱によって確認できなかった。壁高 30 cm、土師器坏などが出土している。平安時代前期。



第5図 松ノ尾遺跡①調査区

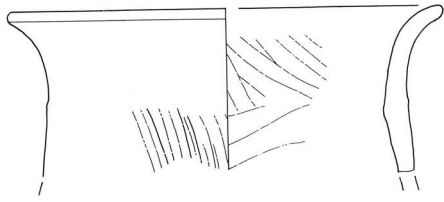


松ノ尾遺跡①調査状況・出土遺物

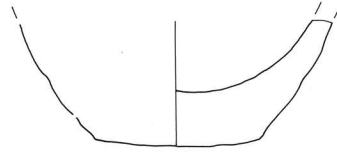


2号住居出土遺物

第6図 松ノ尾遺跡①出土遺物実測図<1>

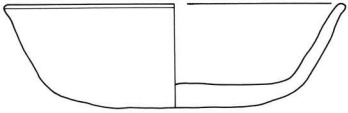


12

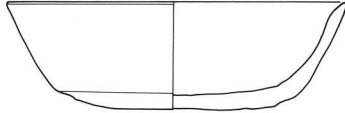


13

3号住居出土遺物



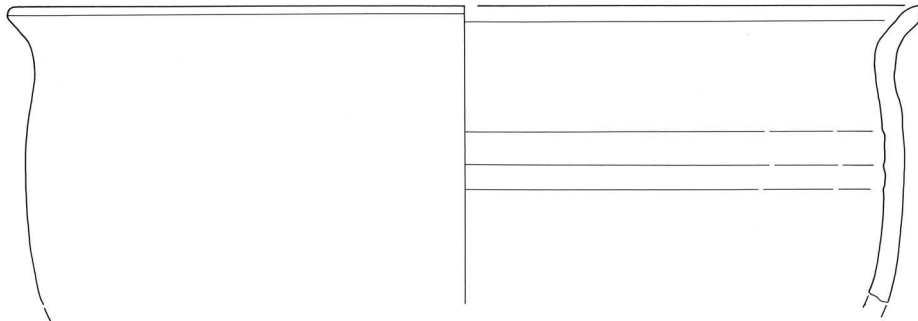
14



15



16

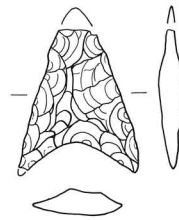


17

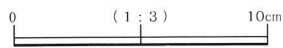
4号住居出土遺物



18



19



遺構外出土遺物

第7図 松ノ尾遺跡①出土遺物実測図<2>

c. 松ノ尾遺跡② (第2図—3)

所在地 甲斐市大下条字 389-6・8

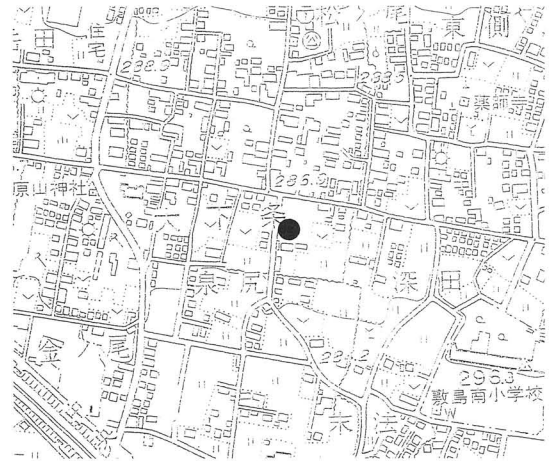
調査原因 宅地造成

調査期間 平成 17 年 9 月 30 日～10 月 11 日

査対象面積 1175 m²

調査担当者 大島正之・須長愛子

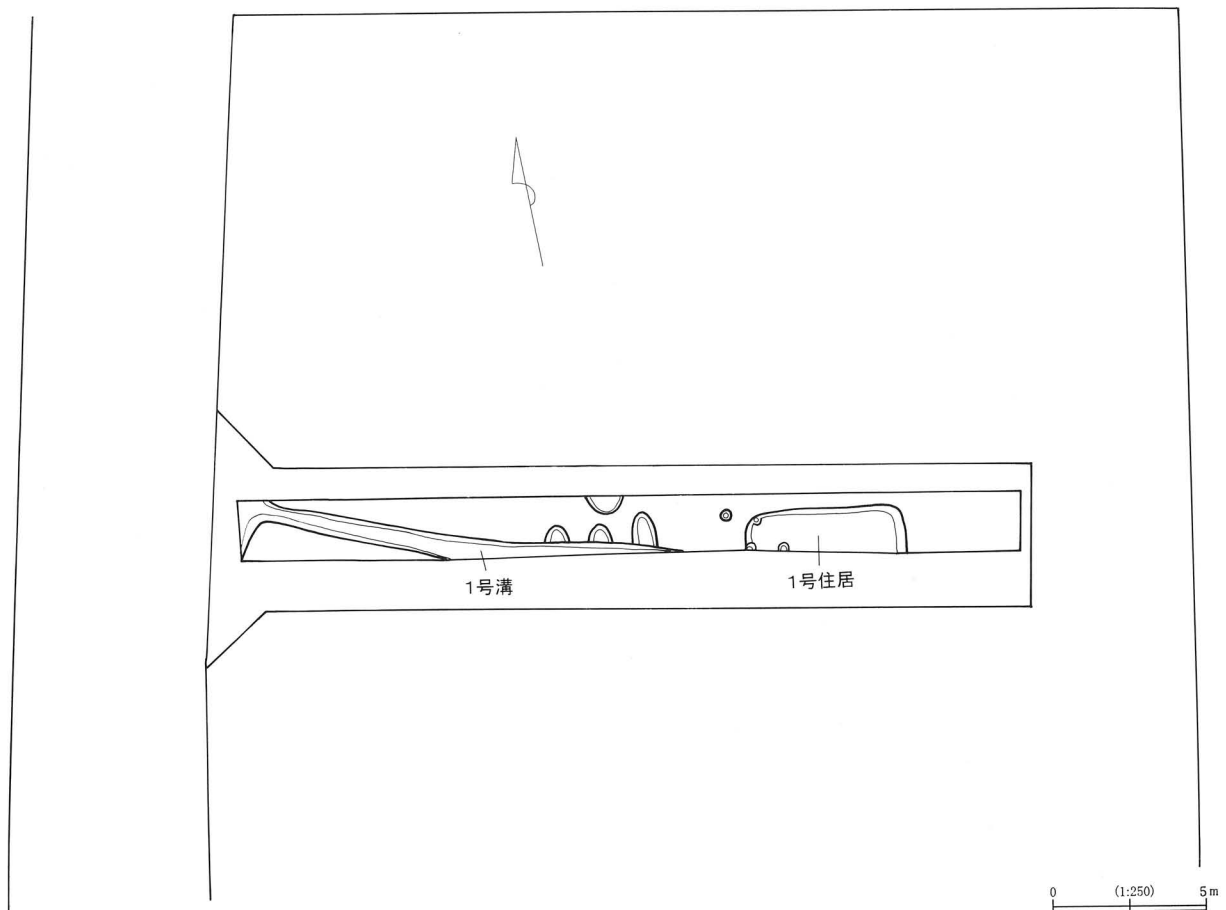
調査概要 松ノ尾遺跡は、荒川右岸の微高地上に営まれた集落遺跡である。これまでの調査によって、縄文時代から室町時代までの多くの遺構が発見されており、住居跡は 100 軒を超している。今回の調査地点は、松ノ尾遺跡の南西端に位置する。



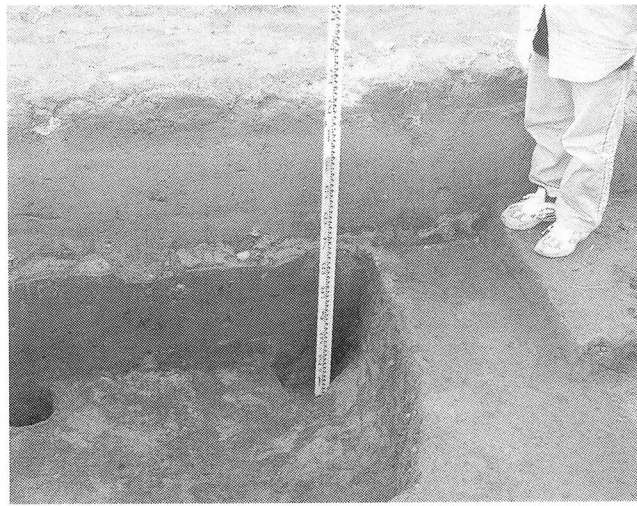
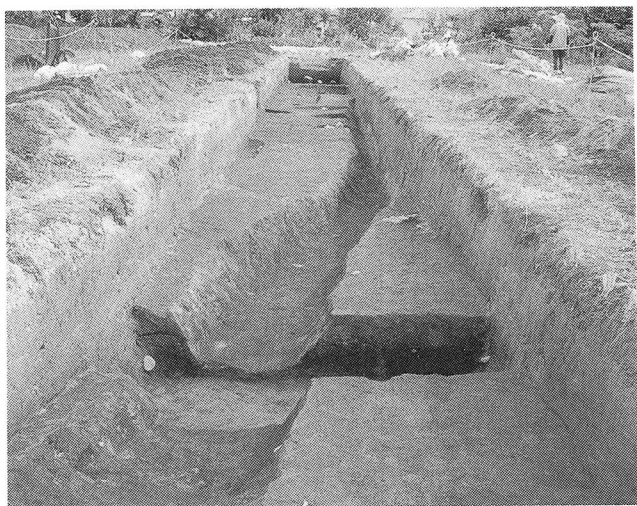
第 8 図 松ノ尾遺跡②位置図

宅地造成による試掘調査で、開発予定地の道路部分を中心に幅約 2 m、長さ 25 m のトレンチを入れ、調査を行った。その結果、住居跡 1 軒・溝状遺構 1 条・土坑 4 基・ピット 4 箇所を確認した。

試掘後の協議により、取り付け道路部分について、平成 17 年 11 月 11 日から本調査が実施され、調査区内では、住居跡 2 軒・溝状遺構 6 条・竪穴状遺構 2 基・掘立柱建物跡 1 軒・土坑 20 基・ピット 46 箇所の遺構を確認した。出土遺物は、土師質土器、須恵器等が出土している。古墳時代から中世に位置づけられる。なお、この調査の報告書は平成 17 年度刊行されている。



第 9 図 松ノ尾遺跡②調査区



松ノ尾遺跡②調査状況

d. 泉尻B遺跡（第2図-4）

所在地 甲斐市大下条 500-1 外

調査原因 共同住宅建設

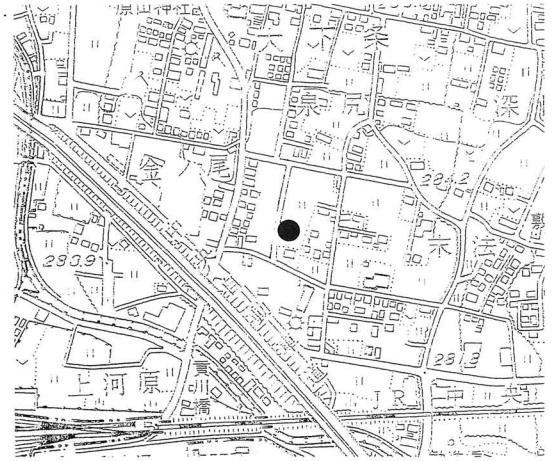
調査期間 平成17年11月9日～25日

調査対象面積 3,444 m²

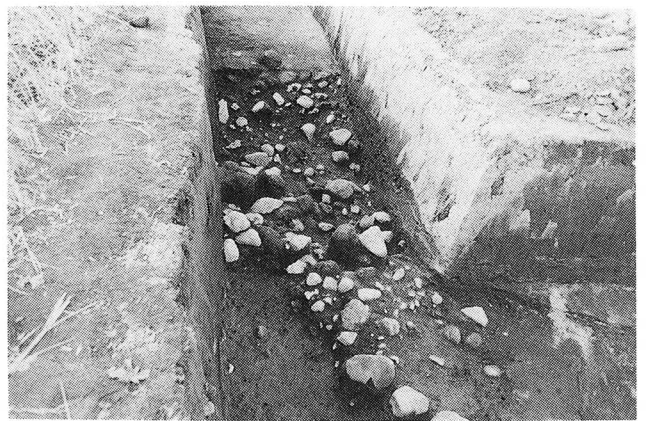
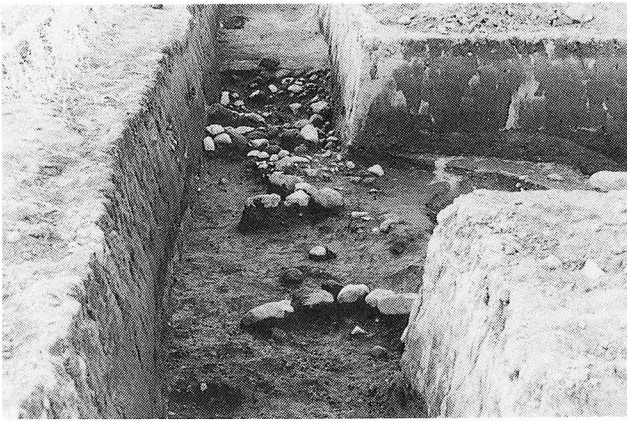
調査担当者 大寫正之

調査概要 泉尻B遺跡は、貢川左岸にある微高地の東端に位置する。これまでに本調査は行われていないが、西側には隣接して金の尾遺跡が所在する。この金の尾遺跡は貢川左岸の微高地上に営まれた遺跡で、これまでに7次に亘り本調査が行われており、縄文時代から平安時代までの複合遺跡であることが確認されている。特に弥生時代の遺跡として著名で、環濠集落などが発見されている。

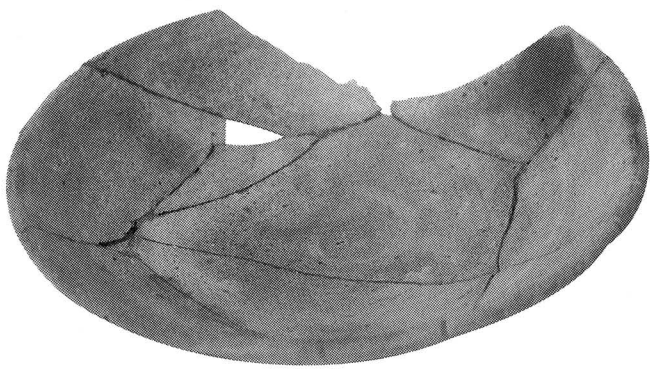
今回の調査では、開発予定地内に5本のトレンチを設定して、確認を行った。この内、2号トレンチのほぼ中央、地表面下1mにおいて、東西8m、南北2mの規模で、不整形な落ち込みが確認された。深さは25cmである。南北の幅については南側が調査区外であるため確認できなかった。この不整形落ち込みからは、9世紀の土師器杯、皿の破片がまとまって出土しており、特に「平」と記された墨書土器が多く認められた。また、5トレンチからは幅1.8mの溝が東西方向に確認されたが、堆積層や立ち上がりなどから自然流路と認められた。落ち込みの他は遺構などが確認されなかったため、本調査は行わず、落ち込み部分は山砂による保護を行った。



第10図 泉尻B遺跡位置図



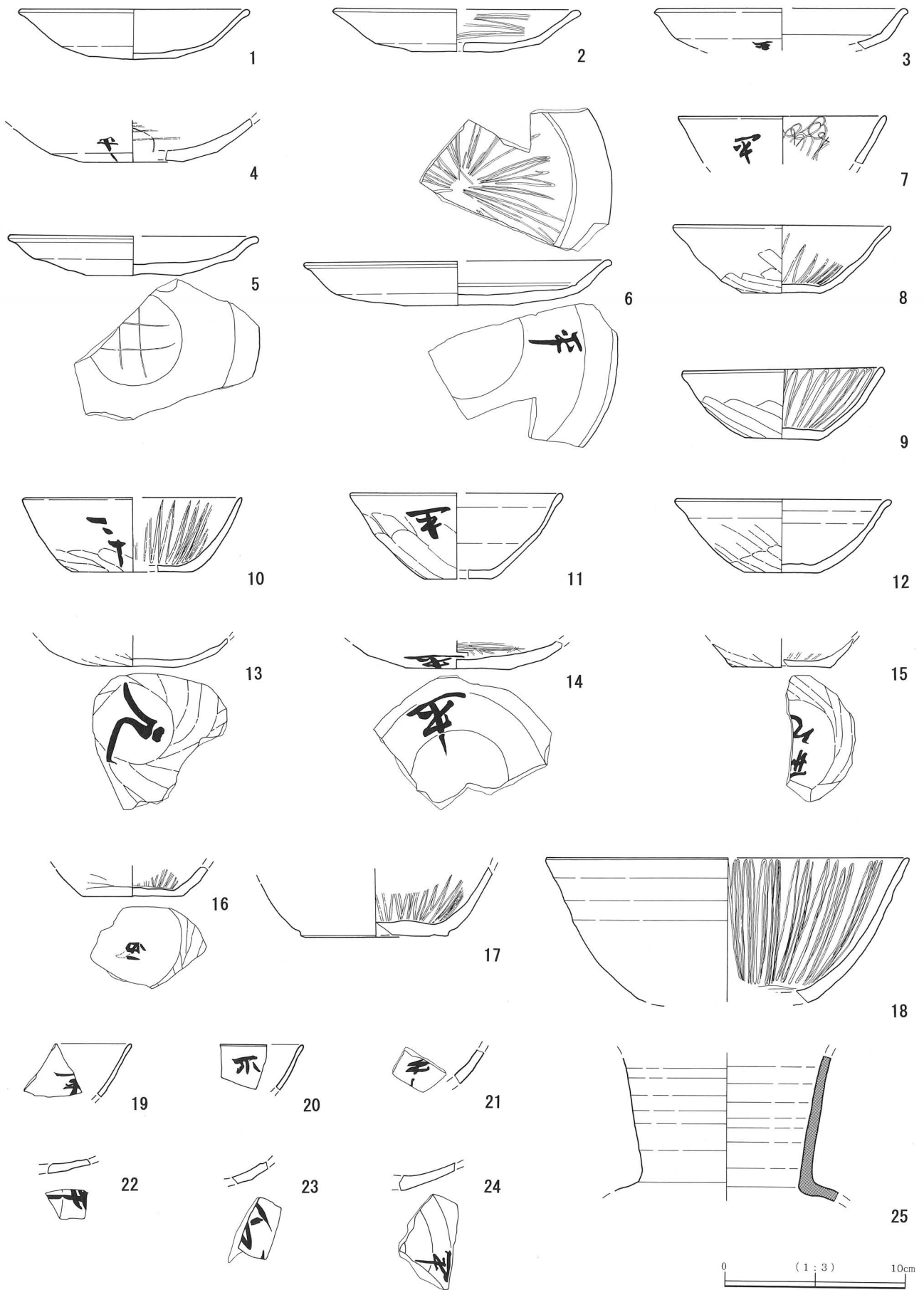
泉尻B遺跡



泉尻B遺跡出土土器



第 11 図 泉尻 B 遺跡調査区



第 12 図 泉尻 B 遺跡出土遺物実測図

Ⅲ. まとめ

甲斐市内の埋蔵文化財包蔵地は竜王地区 79 カ所、敷島地区 73 カ所、双葉地区 63 カ所、合計 215 カ所が確認されている。今年度は、文化財保護法に基づく届出件数 86 件(3月6日現在)を数え、内試掘調査 34 件、工事立会 36 件、慎重工事 16 件、また埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査 3 件である。発掘調査は本年度 2 件実施した。

本市は県内でも有数の人口の急増地域であり、宅地造成や大型店舗出店などの開発が多く、これに伴う試掘調査並びに本調査が頻繁に行われてきている。このような状況は今後も増加していくものと考えられる。

以下、本年度の試掘調査の成果の概要についてまとめておきたい。

間々下遺跡、お舟石古墳は、釜無川の左岸に位置し、これまで釜無川の河川敷との認識が強かった場所である。今回初めて発掘調査を実施し、その結果、この地域が最大 2.6 m の高低差を持つ台地と低地に区部できることが確認された。そして、台地部分にお舟石古墳があり、平安から中世にかけての遺構もこの台地上に位置することが判明したのである。

松ノ尾遺跡は荒川により形成された扇状地上の微高地に存在しており、縄文時代から中世にいたる大規模な遺跡で、過去 13 回発掘調査を行ってきたが、今年度は 2 回の試掘調査を行い、①地点は古墳、平安時代の住居跡、②地点では古墳時代の住居跡や溝状遺構が出土した。①地点については、盛り土による保存が行われ、②地点では公道部分の発掘調査を実施し、その他は盛り土保存の処置をとった。①地点周辺では、過去に試掘調査を実施し、松ノ尾遺跡の南限と考えられる位置を確認している。今回はその北西にあたる箇所であり、試掘調査の結果、調査面積に比べ（これまでの同遺跡調査の結果）出土遺物、遺構とも少なく、同遺跡の西端周辺部である可能性を示唆するものであった。

泉尻 B 遺跡は貢川左岸の微高地から低地にかけて位置する遺跡で、これまでに試掘などの調査は行われていなかった。西側に隣接して縄文時代から平安時代までの複合遺跡である金の尾遺跡がある。この金の尾遺跡の西隣にあって、泉尻 B 遺跡の範囲が瘤のように突出した形状になっているため、便宜上金の尾遺跡と区別して包蔵地登録をしたものであるが、今回の調査により、泉尻 B 遺跡は微高地上に営まれた金の尾遺跡の東端に位置するものと判断してよさそうである。また今回の調査地点は微高地末端部で、湿地と微高地との入り江部分であった可能性が考えられよう。この部分から、9 世紀前半の欠損した土器が集中して出土し、多くが墨書土器であったことは興味深い資料である。

今年度の試掘調査によって、敷島地区南側の遺跡分布状況、古地形の一部が確認された。また、釜無川左岸と茅ヶ岳南麓との結節点の様相も極僅かではあるが確認することができた。今後もきめ細かい確認調査を実施し、甲斐市の埋蔵文化財保護行政を進めていきたい。

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいしくつちょうさねんぼう					
書名	埋蔵文化財試掘調査年報'06					
副書名						
巻次						
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書					
シリーズ番号	5					
編著者名	大島正之・須長愛子					
編集機関	甲斐市教育委員会					
所在地	〒407-0105 山梨県甲斐市下今井236番地2					
発行年月日	平成18年[西暦2006] 3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
まましたいせき 間々下遺跡 まつのおいせき 松ノ尾遺跡 いづみじりいせき 泉尻B遺跡	本文中のとおり	19210	双-21 敷-18 敷-8	本文中のとおり	本文中のとおり	本文中のとおり
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
まましたいせき 間々下遺跡	集落跡	平安・中世	住居跡、土坑	土師質土器 灰釉陶器		
まつのおいせき 松ノ尾遺跡①	集落跡	古墳・平安	土坑	土師器		
まつのおいせき 松ノ尾遺跡②	集落跡	古墳・平安	住居跡、土坑、溝	土師器		
いづみじりいせき 泉尻B遺跡	集落跡	古墳・平安	落ち込み	土師器		

甲斐市文化財調査報告 第5集

埋蔵文化財試掘調査年報 '06

発行日 2006年(H18) 3月31日

発行 甲斐市教育委員会
山梨県甲斐市下今井 236-2
TEL(0551)20-3658

印刷 (有)協和印刷社
